

よむよむ Spring No.8

R2.3.13 (金)



さて、少年少女諸君...

「『ロウソクの科学』が教えてくれること」

尾嶋好美・翻訳
白川英樹・監修
(SBクリエイティブ) NDC. 430



(えっ、あきらくん、わたしといっしょだ)

「はるかちゃんが、手をあげた」

服部千春・作
さとうあや・絵
(童心社) NDC. 913

イギリス王立研究所が1825年から毎年欠かさずに開催している青少年への科学のプレゼント「クリスマスレクチャー」。

中でも1860年に行われたマイケル・ファラデー先生の「ロウソクの化学史」は屈指の名講義と謳われました。(講義に先立って「私もここには一人の青年になって、みなさんに親しく語りかけることを要求させていただく」と高らかに宣言するシーンで私はやられてしまいました。ファラデー先生 すてきすぎる!! 先生、当時御年69歳。若い化学への探究心と、子どもたちへの愛情には心から敬服します)

さて、その時の名講義を再現したのが、この「ロウソクの科学」。いまでもなく名著なのですが、子どもが読むのにはちょっと難しいのが難点。

この本はファラデー先生のクリスマスレクチャーをたどりながら講義の中に出てくる実験を写真で再現し、基礎知識や背景など、行間をいねいに解説してくれています。だからとてもわかりやすい! 化学の実験の好きな人ならなおのこと、面白いでしょう。

2ねん2くみのほとんどの子ははるかのこえをきいたことはありません。はるかはしゃべれないわけではありません。でも学校で話すのはこわくてはずかしくてできないのです... そんなはるかをクラスメートもたんにんの山口先生もやさしくみまわってくれています。

ある日、せきがえで、クラスでいちばん元気もののあきらくんのとなりになってしまう。はるかは、ちょっとうつ。みんなとちがって、なにかとかまってくるあきらくんを、うとうとくかんじます。(もう、ほっておいてくれたらいいのに)けれど...

おお、作者は「4年1組ミラクル教室や「キメキ図書館」でおなじみの服部千春さん。学校ものを書かせたらピカイチの作家さんですよ!



トコハのハトコ



「たちはな、子のみなさんお元気ですか? いもうとたちがさびしがっています。」

「はやくみんなとあそびたいわ!」